道路雨水浸透桝設置に伴う埋蔵文化財第２次発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1999

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

道路雨水浸透桝設置に伴う埋蔵文化財第２次発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1999

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

序

本報告書は1997年に出版された「墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘報告書「久保上ノ平遺跡」」の続編にあたる報告書です。上記報告書は平成7年4月から同年9月に行われた緊急発掘の記録ですが、その後、この時の発掘地に隣接して道路雨水浸透枡が設置されることになり、90㎡が予定地とされました。この地は前回の発掘で、人体文のみられる有孔鍔付土器が出土した40号住居址の大部分が含まれていることもあり、これらの解明に大きな期待を持って発掘を進めました。

今回の発掘は前記40号住居址の全体を見たいという願いから、100㎡に拡大して行いました。その結果、住居址全体の姿は明らかになりましたが、攪乱が広範囲にわたっており、有孔鍔付土器の帰属時期を明確にするところまでいきませんでした。しかし、40号住居址の全体像が明確になったことは、今後の研究に資するものと考えています。なお、40号住居址に隣接して42号住居址の一部を発掘しました。ここも攪乱が激しく、また、検出範囲も少なかったため、不明の部分を残す結果となってしまいました。

試掘から始まって本調査の終了までほぼ一か月を要しました。本調査が始まった4月は雨の日が多く、発掘に参加していただいた皆さんには大変なご苦労をいただきました。また、出土品の整理、復元、報告書の作成に携わっていただいた皆さんのご苦労により、この調査書が成りました。ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

南笑輪村教育委員会

教育長　春日　正

例　　言

1　本書は長野県上伊那郡南箕輪村1164－1に所在する久保上ノ平遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は南箕輪村土地開発公社による宅地造成に伴う道路雨水浸透桝設置を契機に南箕輪村教育委員会がおこなったものである。

3　発掘調査は平成10年３月23日から平成10年４月28日までおこない、引き続いて整理作業及び報告書の執筆をおこなった。

4　土器の復元は福沢幸一氏にお願いした。

5　遺構図は１：60に統一した。

6　遺物実測図は１：３、１：４を基準にしているが、小型体の場合に１：２を用いた。

7　調査・整理にあたっての出土遺物及び図版類は南箕輪村教育委員会で保管している。

本文目次

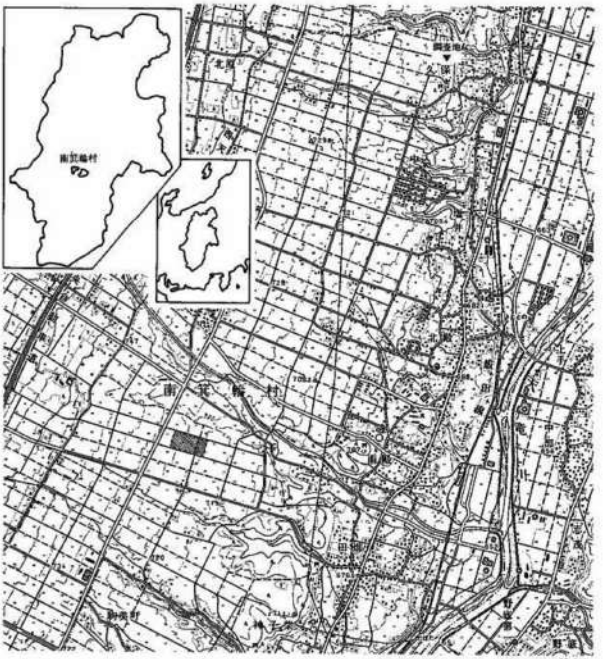
序
例　言

第１章　遺跡の立地と環境……1
　第１節　遺跡の位置……1
　第２節　自然環境……2
　第３節　歴史的環境……2
第２章　調査の経緯……6
　第１節　調査の契機と経過……6
　　調査日誌……6
　第２節　調査の体制……10
第３章　遺構と遺物……11
　第１節　住居址……11
　　40号住居址……11
　　42号住居址……16
　第２節　遺構外出土遺物……18
第４章　総　括……19
　引用参考文献……20
　図　版

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の位置

久保上ノ平遺跡は南アルプスと中央アルプスにはさまれた伊那谷北部の天竜川右岸、南箕輪村1164番地１（字上ノ平）に位置している。天竜川により形成された河岸段丘の上段から２段目に位置する遺跡の標高は702.0ｍで、ここからは、眼下に天竜川により形成された沖積地と南アルプスの山麓を一望することができ、景観のたいへん良いところである。



第１図　遺跡位置図

第２節　自然環境

南箕輪村は長野県伊那盆地北部の広く開けた地域の天竜川右岸に位置している。地形的にみると西に位置する木曽山脈経ケ岳山地群に属する経ケ岳南東部の飛地を除いては、その麓を扇頂とする扇状地と天竜川により形成された沖積地からなっている。

扇状地は一部天竜川、小沢川の複合扇状地になっているが、ほとんどが大泉川により形成されたものである。山麓から段丘突端部までの幅は最大で約4.5km、標高は700ｍから900ｍに及び、東へ約２度のゆるやかな傾斜地となっている。

扇状地扇端部は、雛壇状に段丘が形成されている。また、扇状地特有の涌水からなる小河川の侵食により形成された沢が10箇所みられる。

天竜川沿いに続く段丘は最大で標高差約40ｍを測り、一部には断層の影響を観察できるところがあるため、その地形形成は大泉川や天竜川等、河川の流出や侵食だけではないことが推定される。

自然水系としては西の山地より流れる大泉川・大清水川・戸谷川のほか、前述した段丘崖を源流とする北沢川・南沢川・掩ノ沢川等の小河川が天竜川に流れ込んでいる。

西の山麓から流れ出る河川は扇状地扇央部では伏流し水量は激減するが、扇端部付近で再び湧出する。この湧水は水量及び水温が比較的安定しているので、現在ではそれを利用したワサビ栽培が行われている。

これら扇端部からの湧水量と水質は、昭和３年に扇状地を横切る形でつくられた灌漑用水幹線水路である西天竜水路の完成と、それに伴う大規模な開田により変化したといわれる。

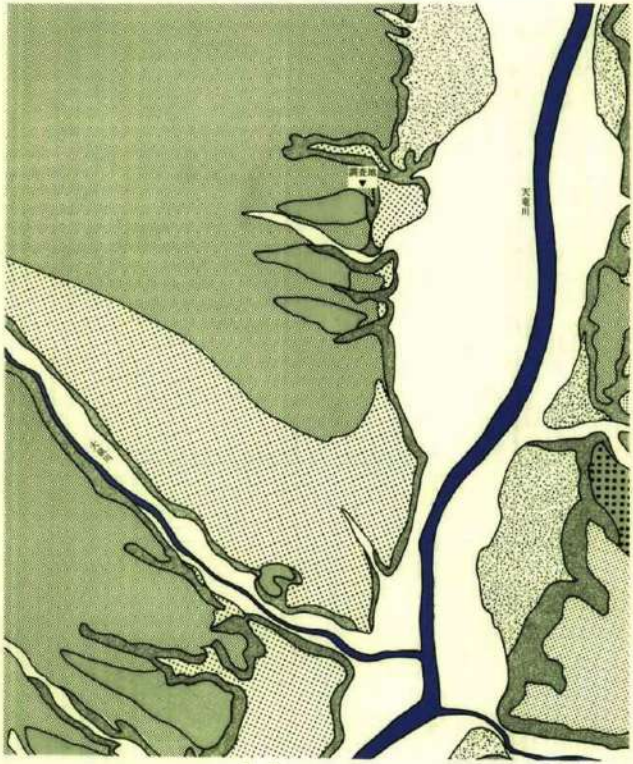
沖積地は昭和27年から29年にかけて実施された土地改良事業により水田地帯となったが、それ以前は天竜川により形成された自然堤防による後背湿地と扇状地扇端部からの湧水により、幾つもの沼が点在する大湿地帯であった。近年この地域は宅地化がすすんでいる。

第３節　歴史的環境

南箕輪村には現在確認されているもので49の遺跡があるが、そのほとんどは扇状地を東流する大泉川・大清水川・戸谷川の両岸と、扇状地扇端部の天竜川右岸段丘上に位置している。他に天竜川沖積面に箕輪遺跡があり、北隣の箕輪町と地続きで大遺跡の一角を占めている。

これらの中でも著名なものは「神子柴遺跡」である。神子柴区大清水地籍に位置する同遺跡は昭和33年に発見され、神子柴型石器一括（国重要文化財指定）の検出をみた。

縄文時代では、これまでに天伯遺跡・大芝東遺跡・北高根Ａ遺跡・高根遺跡・南高根遺跡などの調査で遺構・遺物が確認されている。これらの調査では早期・前期の遺構は確認されていないが、神子柴遺跡の３次調査で押型文土器の破片が出土している。また、大芝東遺跡・南高根遺跡・北高根Ａ遺跡においても早期から前期にかけての土器片が出土している。住居址は天伯遺跡・大芝東遺跡・北高根Ａ遺跡で確認されている。これらは前期末から中期末にかけてのもので、量的には中期の遺構・遺物が多い。この他にも久保上ノ平遺跡では平成７年の調査により、同遺跡が中期中葉～中葉末にかけての拠点的集落であったことが確認され、祭祀的な色合いの強い遺構・遺物が多く出土した。晩期では遺構の確認はないが、神子柴遺跡・南高根遺跡・久保上ノ平遺跡で土器片が出土している。



凡　例

- 氾濫面
- 低位段丘面Ⅱ
- 低位段丘面Ⅰ、新期扇状地上位
- 低位段丘面Ⅰ、新期扇状地下位
- 中位段丘面：中期扇状地上位
- 中位段丘面、中期扇状地下位
- 崖錐面
- 段丘堆積層、扇状地堆積層
- 高遠花崗岩

第2図　地形・地質区分図

弥生時代では遺跡の検出数は少なく、天伯遺跡・北高根A遺跡・北垣外遺跡でわずかにみられる。北垣根遺跡から中期の住居址が検出されているが、ほとんどは後期にあたるものである。久保上ノ平遺跡からは、住居址の他に方形周溝墓群が検出された。また、沖積地の笑輪遺跡からは水田区画の検出はできなかったものの、土器・打製石斧・石鏃等の遺物が出土している。

古墳時代では、子持勾玉と直刀が出土したと伝えられる丸山古墳が造営されているほか、北垣外遺跡より羨円筒形土製品が出土し、古墳時代屋内祭祀関連の資料の追加をみた。また、天伯遺跡においては、多くの住居址が検出され、そのなかから鞆部を欠いてはいるが須恵器の高坏が出土している。

なお、発掘調査によるものではないが、宮の上遺跡より初期土師器高台付壺や五鈴鏡など注目すべき遺物が出土している。

奈良・平安時代をみると、集落はさらに各河川の河岸段丘周辺でも西の山麓付近にまで広がるようになる。古代東山道との関連も含め、今後の検討課題の一つである。

また、宮の上遺跡からは平安時代中期の火葬焼骨が埋葬された、しっかりとした石組みの墳墓がほぼ完全な形で出土している。焼骨を埋納してあった灰釉陶器短頸壺は完形で出土し、村指定文化財となっている。

中世には天竜川右岸の段丘縁辺にその地形を利用して、栩木城・中込城・倉田城・有賀城・内城などの城館が築かれている。

第1表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	地籍	時代						備考
			旧石	縄文	弥生	古墳	平安	中世	
1	久保上ノ平	久　保		○	○	○	○		平成7年度調査
2	久保下	久　保				○			
3	南垣外	久　保		○	○				
4	天王原	久　保					○		
5	内垣外	塩　ノ　井		○	○	○	○		
6	笑輪	塩ノ井・久保 木下・三日町		○	○	○	○	○	昭和57年～平成6年度調査
7	山の神	塩　ノ　井		○	○				
8	内城	北　殿		○		○			
9	天伯	塩　ノ　井		○	○	○	○		昭和42年度調査
10	塩ノ井	塩　ノ　井			○				平成6年度調査
11	上人塚	塩　ノ　井		○			○		
12	塩外	塩　ノ　井		○					
13	東垣外	北　殿			○	○			
14	大泉	大　泉			○	○	○		
15	柴宮	北　殿		○					
16	北垣外	北　殿			○	○	○		平成2年度調査
17	西垣外	北　殿		○	○		○		
18	大泉下	南　殿		○					
19	秋葉神社	北　殿		○	○				
20	宮ノ上	南　殿		○		○			平成元年度調査
21	羽場	田　畑		○					
22	田畑	田　畑		○					
23	神子柴	神　子　柴	○	○			○		昭和33年度調査
24	二重沢	田　畑		○					
25	大芝南	大　芝	○	○	○			○	
26	大芝原	大　芝		○	○				昭和47年度調査
27	大芝東	大　芝		○	○		○		昭和50年度調査
28	南高根	大　泉		○			○		昭和47年度調査
29	北高根	大　泉		○	○			○	昭和47年度調査
30	荻河原	大　泉		○					
31	高根	大　泉		○			○		昭和47年度調査
32	梅現倉	大　泉		○					
33	浄水場付近	大　泉		○		○			
34	白木屋北	大　泉		○		○			

①久保上ノ平 ②久保下 ③南坂外 ④天王原 ⑤向坂外 ⑥箕輪 ⑦山の神 ⑧内城 ⑨天狗 ⑩塩ノ井 ⑪上人塚 ⑫坂外 ⑬東坂外
⑭大泉 ⑮宿宮 ⑯北坂外 ⑰西坂外 ⑱大泉下 ⑲秋葉神社 ⑳宮ノ上 ㉑羽場 ㉒田畑 ㉓神子柴 ㉔二里沢 ㉕大芝南 ㉖大芝原
㉗大芝東 ㉘南高橋 ㉙北高橋 ㉚浜川原 ㉛高坂 ㉜梅現堂 ㉝伊水場附近 ㉞白木屋北

第3図　周辺遺跡分布図

第2章　調査の経緯

第1節　調査の契機と経過

久保上ノ平遺跡は、平成7年度に村及び村土地開発公社による墓地公園造成事業と宅地造成事業に伴い約3,000㎡の発掘調査を実施している。この調査により縄文時代中期・弥生時代後期・奈良～平安時代の3時代にかけての遺構・遺物が検出された。なかでも縄文時代のもので、屋外に土器を配列した特殊遺構や人体の全身を表した人体文付の有孔鍔付土器・人の手が写実的に表現された土器片などの特異なものが検出され、内外より注目されることになった。その他、それまでの上伊那郡内で最多となる方形周溝墓群が検出されるなど、各時代の集落や墓域が高い密度で重複した複合遺跡であることが明らかとなった。

平成9年度になって、村土地開発公社により墓地公園の駐車場北側部分に道路雨水浸透桝の設置が計画された。これを受けた村教育委員会では、設置予定地に平成7年の調査によって遺構のあることが確認されていたため、浸透桝設置予定地の約90㎡の発掘調査を実施することとなった。

前回の調査で確認された遺構は、人体文のみられる有孔鍔付土器が出土していた住居址であったことから、住居址全体をみる必要があると判断し、前回の調査区域であった住居址北側部分の約10㎡について再検出をおこなった。

調査は、まず前回の調査区域にトレンチを設定し住居址の位置する範囲を掘削し、前回の調査で発掘した住居址の検出部分を確認した後、墓地公園駐車場部分の客土を重機で取り除き、検出に入った。

グリットの設定は前回の調査時のものと同様にした。2m×2mのグリットに南側から、東西列をA～Yのアルファベット、南北列を算用数字であらわしている。また、新たに確認した遺構の番号については前回の調査で確認した遺構番号から続きの番号を用いた。

調査は試掘調査を平成10年3月23日より開始し、遺構の位置を確認したのち平成10年4月6日から4月28日まで本調査をおこなった。

○調査日誌

3月

3月23日　雨水浸透桝設置位置の測量と、機材の搬入をおこなう。

3月24日　トレンチの設定をする。

3月25日　トレンチの掘削をおこなう。あらたにトレンチを1本設定し、掘削する。

3月26日　トレンチの掘削をおこなう。36号・39号住居址の床面を確認する。

3月27日　雨天のため作業中止。

3月30日　重機により、表土はぎをおこなう。

4月

4月6日　雨天のため作業中止。

4月8日　午前中に上面確認をおこない、調査地南東部分で住居址を1軒確認する。この住居址を42号住居址とする。また、40号住居址の範囲をつかむため、サブトレンチを入れる。夕方、雨が降り出し作業中止。

第4図　調査範囲図　1：5,000

4月9日　雨天のため作業中止。

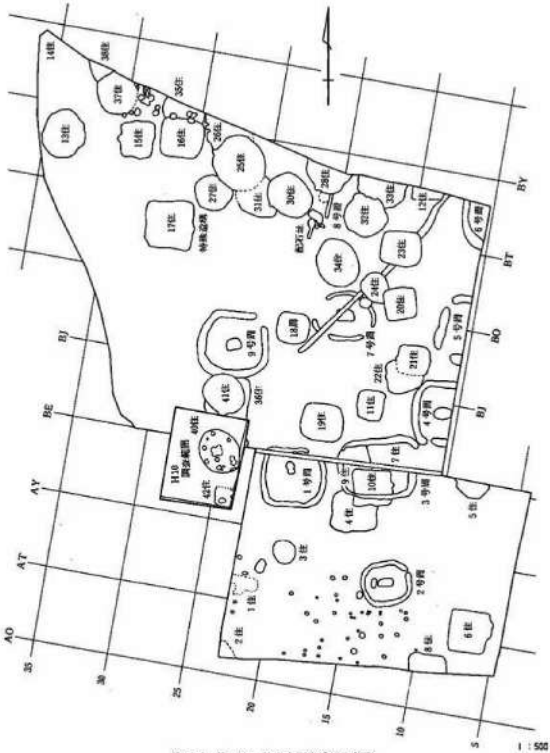
4月10日　上面確認をおこなう。40号住居址に入れたサブトレンチより客土の入ったピットを確認し、前回の調査範囲と40号住居址の範囲をほぼ特定する。

4月13日　雨天のため作業中止。

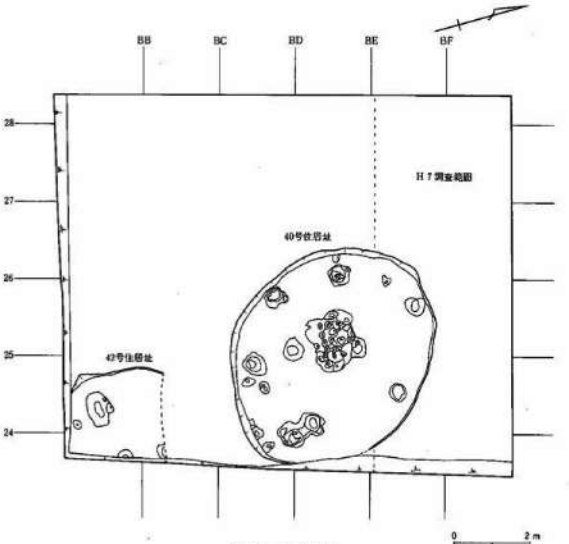
4月14日　雨天のため作業中止。

4月15日　雨天のため作業中止。

4月16日　40号・42号住居址の検出をおこなう。午後に40号住居址の土層断面の記録をする。また、42号住居址より須恵器椀、土師器長胴甕の破片が出土する。



第5図　第1次、第2次調査遺構全体図



第6図　遺構全体図

4月17日　40号・42号住居址の検出をおこなう。午後になり雨となったので作業中止。

4月20日　40号・42号住居址の検出をおこなう。40号住居址ではピット3基と炉址を検出する。

4月21日　40号住居址の炉址とP_3～P_4の検出と土層断面の記録をとる。P_3より石鈴2個が出土する。

4月22日　昨日に続き、40号住居址のP_4・P_7の検出と土層断面の記録をとる。40・42号住居址の平面図をとり、遺物の取上げをおこなう。

4月23日　午前中雨天のため作業中止。午後作業をおこなう。40号住居址炉址南縁でP_8を確認し、検出する。

4月24日　雨天のため作業中止。

4月27日　40号住居址のP_8の土層断面の記録と遺構の全体測量・写真撮影をおこなう。

4月28日　40・42号住居址の測量をおこなう。42号住居址の貼り床をはがしたところ、土坑状の遺構が出土する。40号住居址炉址の焼土部分を取り除くが、下層に遺構は確認できなかった。測量後、写真撮影をして調査を全て終了する。

第2節　調査の体制

○発掘調査　調査担当者　友松　諭（南箕輪村教育委員会学芸員）

調　査　員　福澤幸一

調査作業員（順不同）

小沢よね子　五十嵐正子　飯塚美喜子　福澤京子

・事　務　局

杉澤　崇　（南箕輪村教育委員会教育長）～H10.3

春日　正　（南箕輪村教育委員会教育長）H10.6～

原清一郎　（南箕輪村教育委員会教育長職務代理・教育次長）

唐沢由江　（南箕輪村教育委員会社会教育係長）～H10.10

山崎文直　（南箕輪村教育委員会社会教育係長）H10.10～

有賀仁志　（南箕輪村教育委員会社会教育係）

宮下裕司　（南箕輪村教育委員会社会教育係）

松澤英太郎　（南箕輪村教育委員会社会教育指導員）

第３章　遺構と遺物

第１節　住居址

40号住居址

調査地の北東部より検出した。この住居址は平成７年の調査時に40号住居址として住居址北側の一部を検出しており、人体の全身が表現された人体文のみられる有孔鍔付土器や台付土器の台部が出土している。

住居址のプランは、長軸6.3ｍ、短軸5.1ｍの楕円形を呈する。主軸はＮ－30°－Ｗを示す。壁残高は55～０cmである。壁の掘方は全体的にゆるやかな傾斜を呈しているが、調査区域西側の地山の傾斜がきつい部分については、やや直に近い形となっている。また、東壁の一部は壁の立ち上がりが不明瞭ではっきりしていなかった。周溝は認められなかった。床面はローム層まで掘り込まれ硬く叩き締められているが、住居址中央部分の西側から北側にかけての一部分が良好な状態をとどめているほかは、攪乱により破壊されており、硬化した床がブロック状に散在している状態で明確にとらえることができなかった。

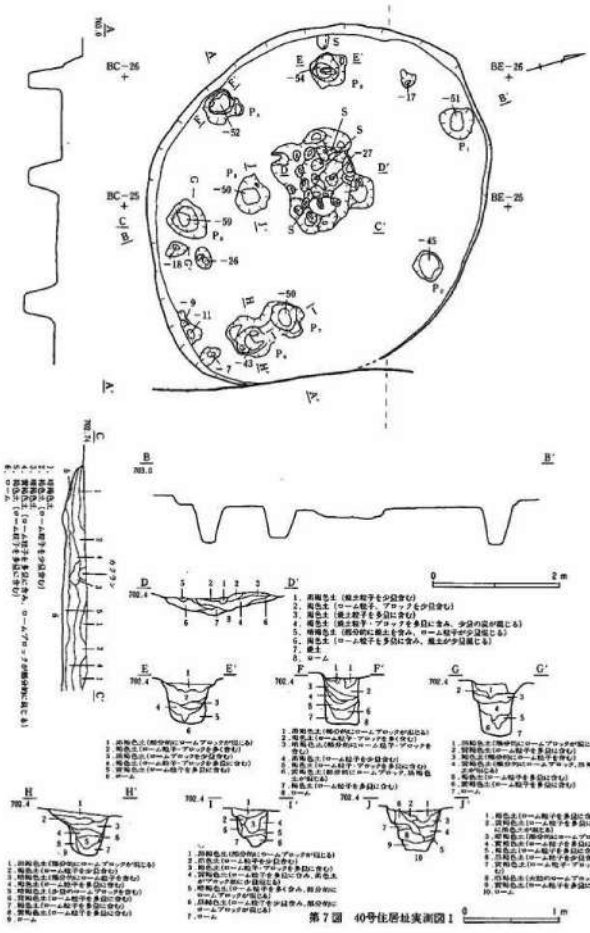
ピットは８基検出した。このうち、P_1・P_2は前回の調査で検出しているものである。P_1～P_8のそれぞれの深さは43cm～59cmと安定している。主柱穴はP_1～P_4・P_7と思われるが、P_4・P_8の位置からみて、この住居址は拡張されているか、または２つの住居址が重複しているなど新旧関係のあることが考えられるが、本址北側部分が奈良時代末～平安時代の住居址と重複していることや、床面のレベルに差異が見られなかったことなどから、はっきりとしなかった。８基のピットでP_3・P_5の断面形が袋状となっている。

炉址は住居址のほぼ主軸上、中心よりやや北側のP_2・P_4の中間部分に位置している。炉址は石囲炉で、中心部の周囲には石を抜き去ったと思われるくぼみがみられるほか、３個の炉石が残っていた。そのうちの１つは扁平な砂岩を縦に埋め込む形になっていた。これらの石は火熱を受けた跡が認められた。炉址の中心部周辺には焼土が広がり、炉底は赤変し硬化していた。炉址で、炉底が確認できたところは１箇所のみであったが、掘方が比較的広いことや炉石を抜き去ったと思われるくぼみの位置関係から炉址の重複が考えられる。炉址周辺にみられた焼土部分及び床面が軟弱な部分を掘削したが、下層に遺構は認められなかった。

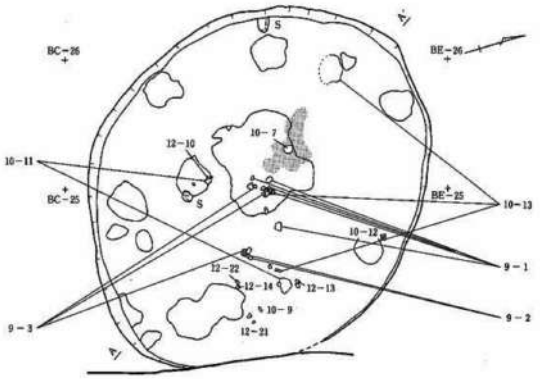
遺物は散乱した状態で、出土した量は多くない。炉址周辺の床面直上より深鉢型土器（図９－１・２・３）浅鉢型土器（図10－11）が出土している。平成７年度調査時に出土した人体文のみられる有孔鍔付土器（図10－13）は、P_1とP_3の中間部分で床面より検出したが、この土器の側面及び口縁部の破片６個が炉址付近の床面直上及び覆土中より出土した。また、炉址覆土上層より深鉢型土器の口縁部（図10－７）、覆土中層より深鉢型土器の把手部分（図版６－３）が出土している。これら炉址より出土した土器は火熱を受けており、特に覆土中層より出土した把手部分については表面がケロイド状に変質している。

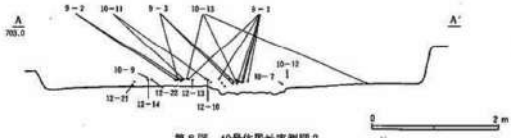
この他に住居址覆土中層より浅鉢型土器（図10－10）、台付土器台部（図10－12　平成７年度調査時出土）土器片錘（図11－１）、また、P_3の覆土中より石匙（図13－１）、横刃型石器（図13－２）、P_4の覆土中より黒曜石２個が出土したほか、住居址覆土中層より石斧（図13－３）、不定形石器（図13－４）、住居址覆土上層より石斧（図13－６・７）、石匙（図13－５）などが出土している。

本址の時期は住居址が重複していることが考えられるためはっきりとしないが、遺物から判断すれば縄文時代中期中葉～中葉末であると思われる。

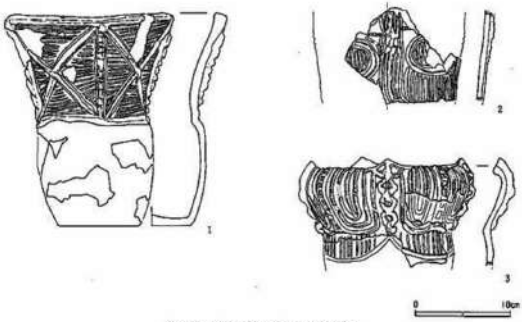


第7図　40号住居址実測図1

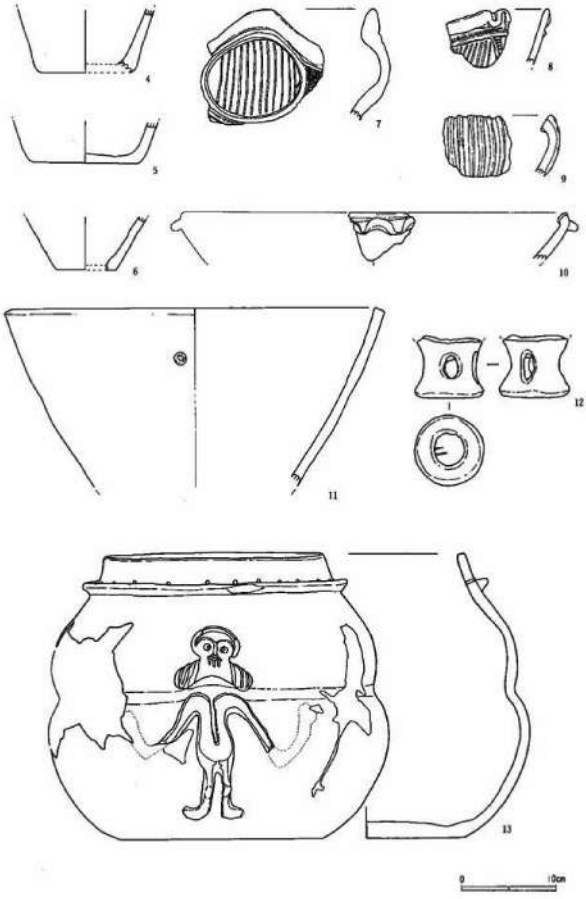




第8図　40号住居址実測図2

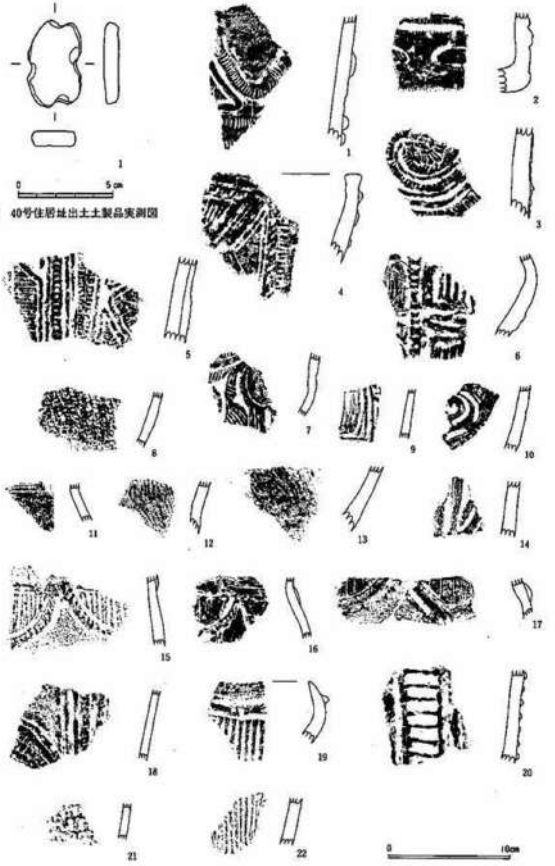


第9図　40号住居址出土土器実測図1

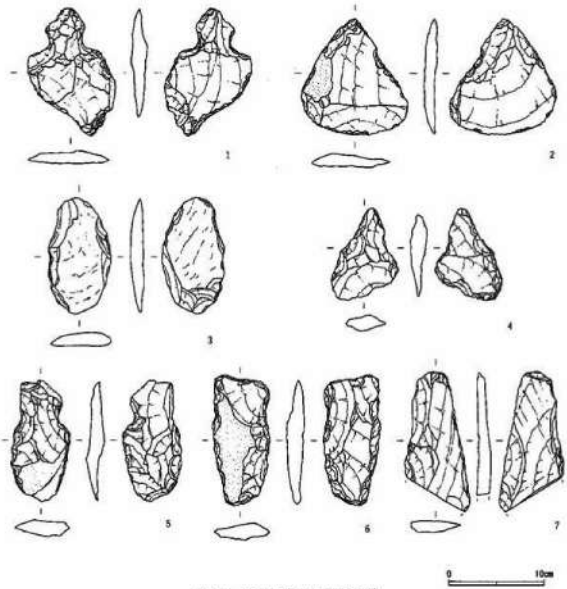


第10図　40号住居址出土土器実測図 2

第11図　40号住居址出土土製品実測図



第12図　40号住居址出土土器拓影図



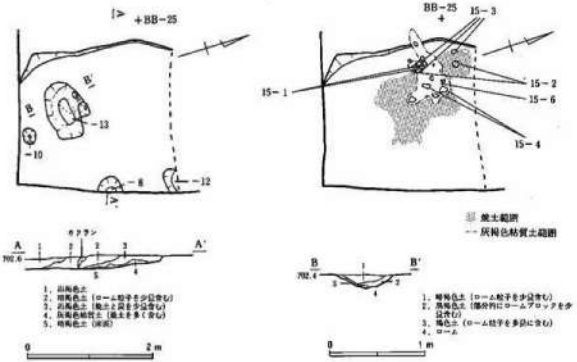
第13図　40号住居址出土石器実測図

42号住居址

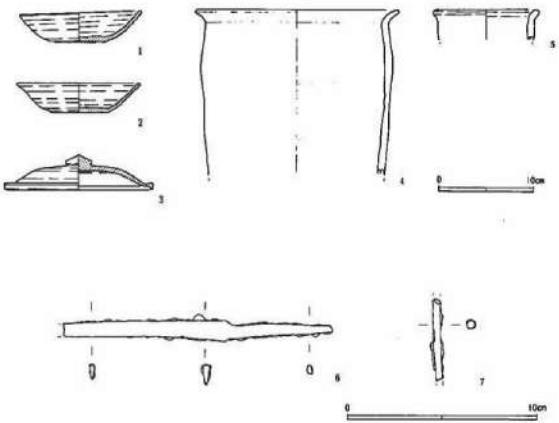
調査地南東の隅より検出した。住居址北側部分が撹乱により破壊されていたことや、検出範囲が一部であったことからプランは不明である。壁残高は16cm～8cmで周溝は認められなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれている。黒土の貼り床となっているが、部分的にのみ認められ締まりも全体的に軟弱であった。

ピットは認められなかった。住居址北側部分の西壁から中央部分にかけて焼土流じりの灰褐色粘質土の塊と、その周囲に焼土が広がっていた。検出当初はカマド施設と考え、断ち割ってみたがカマドではなかった。カマドの床面、袖部分などが見られなかったことから本来のカマドに近い部分か、カマドの一部が撹乱により破壊されたものであると思われる。

また、住居址中央部からやや南側によった床の下から長軸96cm、短軸64cmの不正楕円形を呈する土坑状の遺構を検出した。深さは13cmで底部から北側傾斜部分にかけて灰褐色粘質土が貼られ、その上にはロームがみられた。灰褐色粘質土はたいへんよく締まっていた。焼土及び底部に火熱による赤変は認められなかった。これが、この住居址に付属していたものか、別の遺構のものかは判然としなかった。



第14図　42号住居址実測図



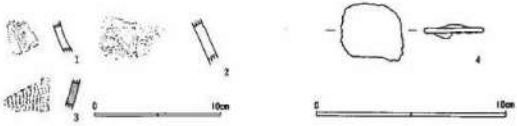
第15図　42号住居址出土遺物実測図

遺物は床面直上で観察された灰褐色粘質土及びその周囲に広がっていた焼土からまとまって出土しており、土師器長胴甕（図15－4）、甕型土器（図15－5）、須恵器坏（図15－1・2）、蓋坏の蓋（図15－3）、刀子（図15－6）、棒状の鉄製品（図15－7）のほか、黒色土器坏底部及び口縁部破片、須恵器壺破片が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。

第2節　遺構外出土遺物

上面確認時において採集した遺物には縄文時代中期中葉～中葉末の土器破片、黒曜石、弥生土器破片（図16－1・2）、須恵器破片（図16－3）、用途不明の板状の鉄製品（図16－4）の他、中世以降では近世～近代の陶磁器類が14点出土している。



第16図　遺構外出土遺物拓影・実測図

第4章　総　　括

今回の調査では、平成7年の調査時において人体文のみられる有孔鍔付土器が出土した縄文時代中期の40号住居址と新たに平安時代前期の住居址1軒を検出した。以下、今回の調査結果について問題点を上げ、簡単ではあるがまとめとしたい。

前回の調査では、40号住居址の調査範囲が住居址北側の一部であり、検出した範囲が狭く、更に出土した遺物が有孔鍔付土器と台付土器の台部のみであったために、本址及び有孔鍔付土器の帰属時期については、はっきりとしなかった。

今回の調査は40号住居址をほぼ完掘するものであったが、撹乱の影響が広範囲にわたっており、予想に反し遺構の保存状態は良好とはいえなかった。しかし、出土した土器等により、40号住居址より出土した有孔鍔付土器の帰属時期を検討する上での資料の追加をみたことは大きな成果であったといえる。

40号住居址は検出したピット及び炉址から住居址が拡張されているか、もしくは重複していることを推定させるものであった。撹乱の影響から安定した床面が住居址の全体の4分の1程度で、西壁から北壁周辺に限られていたこと、また住居址北側の一部が他の住居址と重複しているなどから壁や床面の差異などが明確に認められず、問題の残るものとなった。出土した土器についても中期中葉～中葉来にかけての複数時期のものが混在した形で認められたことから、本址の時期については慎重な検討が必要と思われる。

有孔鍔付土器の帰属時期についても前記と同様に慎重な検討を要するところであるが、出土位置及び床面から出土した状況からみて住居が機能を失う時点まで本址に伴っていた土器であると考えたい。

40号住居址から出土した遺物はそれほど多くないものの、有孔鍔付土器や台付土器の台部などの遺物から祭祀的な色合いが強い住居址である印象を受ける。

久保上ノ平遺跡から検出された縄文時代の遺構・遺物には、屋外に土器を配列した特殊遺構や人の手を非常に写実的に表した土器片などがみられ、全体的に祭祀色の強いものが目立つ。これらとの関連を明らかにすることで、住居址の性格をより明確にすることができると思われるが、集落を含めた全体の中での考察が必要であり、今後の資料の追加を期待したいところである。

平安時代の住居址である42号住居址については、住居址の検出範囲がわずかで、その大部分が撹乱により破壊されていたことから、詳細については不明な部分が多いものであった。床面下より検出した灰褐色粘土の貼られた土坑状の遺構がどのようなものなのか問題であり、課題の残るものであった。

久保上ノ平遺跡は両岸を沢に挟まれた段丘上に位置し、これまでの調査で検出された遺構・遺物は過去に村内で調査された遺跡と比較しても規模が大きく資料的にまとまったものであり、学術的価値が高い遺跡であるといえる。久保上ノ平遺跡には、まだ未調査区域が北側に残っていることから、今後この部分を含めた周辺地域の保存対策が大きな課題になると考える。

なお最後になりましたが、調査及び本書の作成にあたり、ご理解と多大なご尽力を頂いた関係諸機関をはじめ、発掘調査団の皆様、ご指導を頂いた先輩諸氏に改めて感謝し、お礼を申し上げたい。

引用参考文献

長野県教育委員会　1972　『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書 上伊那郡南箕輪村 その1・その2』

社団法人　中部建設協会　1985　『天竜川上流域地質図』

長野県史刊行会　1981　『長野県史　考古資料編　全1巻(3)　遺構・遺物』

南箕輪村誌編纂委員会　1990　『南箕輪村誌　上巻　自然編・遺跡編・信仰生活編・民俗編』
『南箕輪村誌　下巻　歴史編』

南箕輪村教育委員会　1967　『天伯遺跡緊急発掘調査概報』

南箕輪村教育委員会　1969　『神子柴遺跡緊急発掘調査報告書（第3次発掘調査）』

南箕輪村教育委員会　1973　『高根遺跡』

南箕輪村教育委員会　1975　『大芝東遺跡』

南箕輪村教育委員会　1992　『北垣外遺跡　宅地造成事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

南箕輪村教育委員会　1993　『箕輪遺跡　上伊那郡南箕輪村塩ノ井中田地区』

南箕輪村教育委員会　1994　『宮ノ上墳墓　宮ノ上遺跡発掘調査報告書』

南箕輪村教育委員会　1997　『久保上ノ平遺跡　墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

第２表　出土土器観察表

遺構	個体No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	残存度	出土位置	備考
46号住	9－1	深鉢	15.0	8.3	22.2	ナデ	ナデ	砂粒(砂粒少量含)	良好	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(5YR4/2)	7/10	床面直上及び覆土中	土器内側底部周辺に炭化物付着。底部にあたり痕あり。
	9－2	〃	－	－	－	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐色(5YR5/4)	暗赤褐色(5YR3/6)	1/10	〃	内面にヒビ割れが多い。
	9－3	〃	14.8	－	－	〃	〃	〃	〃	にぶい褐色(7.5YR5/3)	褐灰色(7.5YR4/1)	1/5	床面直上及び覆土中	4層位の底径口縁、太部幅顕著に4層位の器形を示す。。内面に剥落した部分がある。
	10－4	〃	－	9.8	－	〃	〃	〃	〃	明赤褐色(5YR5/6)	赤褐色(5YR4/6)	1/20	覆土中	
	10－5	〃	－	11.0	－	〃	〃	〃	〃	にぶい褐色(7.5YR5/4)	にぶい褐色(7.5YR4/3)	1/20	床面直上	
	10－6	〃	－	6.2	－	〃	〃	精良	〃	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい褐色(7.5YR4/3)	1/20	覆土中	
	10－7	〃	－	－	－	〃	〃	精良(砂粒少量含)	〃	灰オリーブ色(5Y6/2)	明黄褐色(10YR6/6)	1/20	炉出	外面に2次的な熱を受けた跡が認められる。
	10－8	〃	－	－	－	〃	〃	〃	〃	橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	覆土中	内外面に2次的な熱を受けた跡が認められる。
	10－9	〃	－	－	－	〃	〃	精良	〃	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	〃	床面直上	
	10－10	鉢脚	(40.1)	－	－	1.ガキ	1.ガキ	精良(砂粒少量含)	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR5/4)	〃	覆土中	側面に赤色顔料が認められる。
	10－11	〃	(38.1)	－	－	〃	〃	精良	〃	橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR5/3)	1/10	床面直上及び炉址、覆土中	胴部に穿孔
	10－12	白竹土器	－	7.3	－	ナデ	ナデ	〃	〃	橙色(7.5YR6/8)	褐灰色(7.5YR4/1)	〃	覆土中	H7調査時出土
	10－13	有孔鉢付土器	21.3	21.0	29.9	1.ガキ 赤色顔料	1.ガキ 赤色顔料	砂粒(砂粒少量含)	〃	橙色(5YR6/6)	にぶい橙色(5YR6/4)	3/4	床面	H7調査時出土
42号住	15－1	坏(須恵)	12.4	5.1	3.4	ロクロナデ 底部糸切り	ロクロナデ	精良	普通	灰色(10Y6/1)	灰色(10Y6/1)	4/5	床面直上	東賀明遺跡
	15－2	〃	12.6	5.9	3.0	〃	〃	精良(砂粒少量含)	良好	青灰色(5BG6/1)	青灰色(10BG6/1)	9/10	〃	
	15－3	瓶(須恵)	15.25	－	3.6	ロクロナデ 天井部分回転ヘラ削り	〃	精良	〃	緑灰色(10BG5/1)	青灰色(5BG6/1)	2/5	〃	内側に自然釉
	15－4	長胴壺	20.6	－	－	ヘラナデ	ヘラナデ	精良(砂粒やや多い)	〃	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい褐色(7.5YR4/3)	1/10	〃	内側に炭化物付着
	15－5	甕(土師)	10.3	－	－	ナデ	ナデ	精良	〃	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR5/4)	1/20	覆土上層	

第3表　出土土製品観察表

遺構	図版No.	分類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
40号住	11－1	土器片錘	4.6	2.9	0.8	15	覆土中層	無文

第4表　出土石器観察表

遺構	図版No.	分類	石質	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
40号住	13－1	石匙	砂岩	9.9	6.9	1.1	64	P_3覆土	
	13－2	横刃型石器	〃	10.5	8.4	1.1	80	〃	
	13－3	打製石斧	ホルンフェルス(粘質)	8.7	5.0	1.1	51	覆土中層	
	13－4	不定形石器	砂岩	7.1	5.2	1.3	34	〃	
	13－5	石匙	〃	9.3	4.6	1.3	57	覆土上層	
	13－6	打製石斧	〃	10.1	4.5	1.4	52.5	〃	刃部磨滅、使用痕あり
	13－7	〃	ホルンフェルス(砂質)	(10.8)	(5.1)	0.9	(52)	〃	刃部欠損

第5表　出土鉄製品観察表

遺構	図版No.	分類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
42号住	15－6	刀子	(14.3)	1.1	0.4	(14)	床面直上	先端部欠損
	15－7	不明	(5.3)	(0.4)	0.4	4	〃	両端部欠損
遺構外	16－4	〃	3.0	3.3	0.2	9	BD－26	用途不明

図　　版

調査地近景（西方より）

調査区全景（北方より）

図版 2

40号住居址

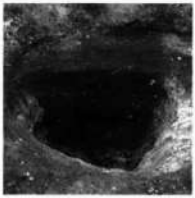
40号住居址 遺物出土状況 1

40号住居址 遺物出土状況 2

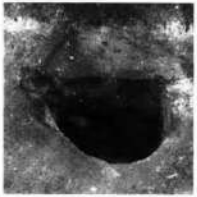
40号住居址 炉址

40号住居址 炉底部

40号住居址 炉址土層断面

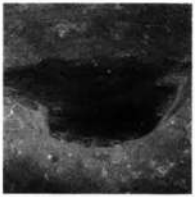


40号住居址 P_1土層断面



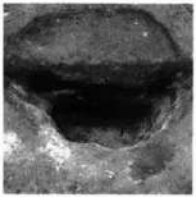
40号住居址 P_4土層断面

40号住居址 P_5土層断面



40号住居址 P_6土層断面

40号住居址 P_7土層断面



40号住居址 P_8土層断面

図版 4

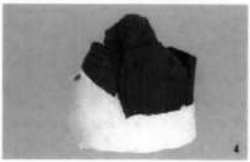
42号住居址

42号住居址 遺物出土状況 1

42号住居址 遺物出土状況 2

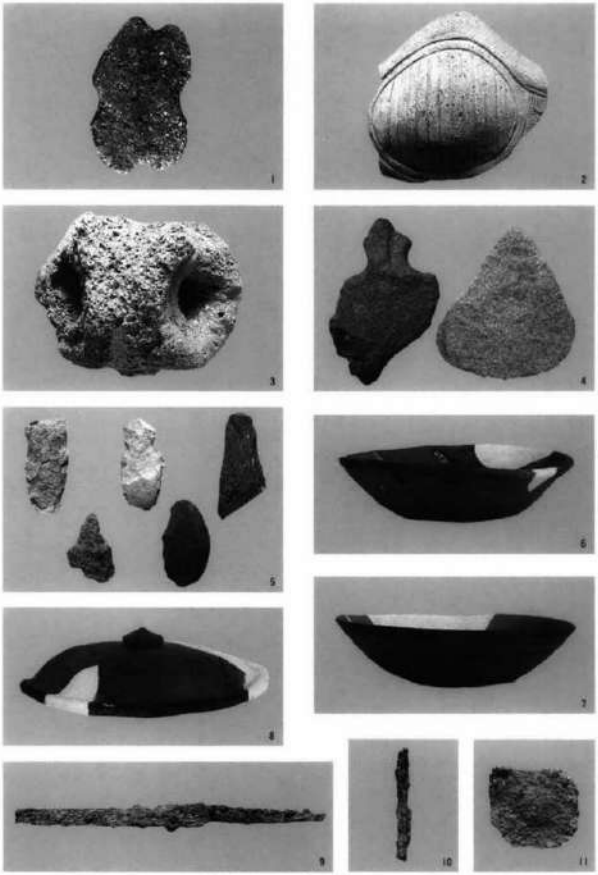
42号住居址

42号住居址 土坑状遺構



1～6．40号住居址 出土土器

図版 6



1．40号住居址 出土土製品　2．40号住居址 炉址出土被熱土器片 1　3．40号住居址 炉址出土被熱土器片 2　4．40号住居址 P_3出土石器　5．40号住居址 出土石器　6～8．42号住居址 出土土器　9～10．42号住居址 出土鉄製品　11．遺構外出土鉄製品

報告書抄録

ふ り が な	くぼうえのたいらいせき
書　　名	久保上ノ平遺跡
副 書 名	道路雨水浸透桝設置に伴う埋蔵文化財第２次発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	南箕輪村埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
シリーズ番号	
編 著 者 名	宮松　論
編 集 機 関	南箕輪村教育委員会
所　在　地	〒399－4511　長野県上伊那郡南箕輪村4840番地１　TEL（0265）76－7007
発 行 年 月 日	1999年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
久保上ノ平遺跡 （くぼうえのたいらいせきあと）	長野県上伊那郡南箕輪村1164-1 （ながのけんかみいなぐんみなみみのわむら）	20385	25	35° 53′ 27″	137° 58′ 59″	19980323 1 19980428	100㎡	道路雨水浸透桝設置に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久保上ノ平	集落址	縄文 弥生 奈良 平安	縄文中期住居址１ 平安前期住居址１	縄文土器　深鉢 浅鉢 石斧　石匙 土器片錘 須恵器　壺形壺 坏 土師器　長胴甕 黒色土器 坏	平成７年調査時に、人体文のみられる有孔鍔付土器が出土した40号住居址をほぼ完掘した。

道路用水発送料設置に伴う埋蔵文化財第２次発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

平成11年３月26日　発行

編　集　長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

発　行　長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

印　刷　はおずき書籍株式会社